

尼崎市子ども・子育て審議会 第1回計画推進部会 議事録

開催日時	令和2年9月16日（水） 午後6時30分～午後8時48分
開催場所	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホールA・B
出席委員	田邊部会長、大和委員、梅本委員、鎌田委員、杉本委員、濱名委員、藤原委員、堀川委員、平之内委員
議題	(1) 尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の実施状況について (2) 尼崎市子ども・子育て支援事業計画（令和元年度実績）の点検・評価について (3) その他
資料	・資料1 尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の実施状況について ・資料2-1 待機児童解消に向けた現状と今後の取り組みについて ・資料2-2 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の進捗状況等

開会

- 配布資料確認

1 尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の実施状況について

- 資料1に基づき、事務局から説明

委員

学校現場で子どもたちを預らせて頂いている立場として感じたことを申し上げます。

5ページの「要保護児童に関する個別ケース検討件数」についてご説明頂きましたが、対象となる家庭の子どもが増えていると感じております。市のこども相談支援課とも連携させていただいておきまして、「児童福祉士としての経験が浅い」という記載もございますが、今の家庭環境の中では、子どもへの支援だけでなく、親に対する支援が必要だと思っております。

関係機関の方と話をしていると、「保護者にはこのように伝えていきます。」とか「保護者にはこのように指導しています。」ということと言われるのですが、やはり、親に伝えたり、指導したりするだけで改善するということは難しいことだと思うので、親に対して支援するという視点で取り組んでいただかないといけないと思います。

児童相談所の設置については、「県と協議しながら検討」とありますが、新聞にも出ていたと思うので、「検討」ではなく「設置のための準備に入る」と考えてよろしいでしょうか。

事務局

児童相談所の設置について、新聞報道にもありましたとおり、令和3年4月に県の児童相談所が尼崎市内に設置される予定ですが、県の児童相談所が設置されることに合わせて、いくしあとの連携を取りながら、尼崎市の児童相談所の設置に向けて検討していき、そのためのロードマップについても県と協議していくということになっております。

委員

6ページの1番上の指標の今後の取組みで「教育委員会等と連携し、就学時健診を工夫」とありますが、小学校に入学するときの就学健診のあり方の工夫では遅いと思います。それよりも以前の幼児期からの相談支援が必要なのではないかと思っております。そのため、教育委員会や学校だけ

でなく、幼稚園や保育所との連携を進めていただき、幼児期からの相談支援を並行して取り組んでいただかないと、就学時健診のあり方を検討していても何の解決にもならないのではないかと感じます。

不登校の話も出ましたが、18歳までの時期にひきこもりになると、20歳以降に社会に出る可能性が本当に低くなりますので、その年齢に対しての支援は必要だと思うのですが、実際には、小学校で観察していると、中学年から高学年で不登校の兆しが出てきていると思います。そのため、未然防止と早期対応ということから考えると、小学校の中学年や高学年あたりからの取組を充実して頂けるようお願いしたいのと、昨年度からスクールソーシャルワーカーの数を増やして配置して頂いているのですが、まだ、小学校に対しては少ないのではないかと感じております。特に、早期対応の視点で考えると、私が勤務する小学校では、中学校に配置されるスクールカウンセラーが月に1回だけ来るという体制になっており、もちろん中学校も大事なのですが、同じように小学校の時期からスクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーが活用できるような体制を整えていただいて、できる限り、予防・未然防止・早期対応というかたちで不登校児童への対応ができると良いと思います。

学びと育ち研究所の話も出てきましたが、昨年度に早生まれの子どもの研究についてのアンケートへの協力ということで、校長会で協力をしたのですが、研究の目的や方向性や成果について説明をされないまま進んでいるというふうに思います。こういった目的で活用するのかなどを聞いたのですが、その場では直ぐに回答がもらえず、後になって研究報告の冊子を送っていただくことになり、すごく良い研究をされていることはその冊子を見ればわかるのですが、やはり、子どもたちの大事なデータを扱うので、学校にもきちんと利用目的を説明して頂いた上で、進めていただきたいと思いました。

部会長

早い段階からの予防や対策が必要なのではないかとといったご意見だったと思います。

最初の虐待のところでは、家族の支援も大事だということでしたが、まさしくそのとおりで、同時に養育問題だけではなく、貧困問題なども大きな影響がありますので、そういった問題に関連付けて考えていかなければいけないところがあるのではないかと思います。

研究の話ですが、調査する場合にはどういう目的でどういう方法で調査するのかを示すことがエチケットなので、行政の方ではきちんとされていると思いますが、そのあたりは今後配慮して頂いて、特に、子どものデータを得るときは、勝手に入手できないし、保護者への配慮も必要になると思いますので、そのあたりはしっかりと対応していただきたく思います。

委員

スクールソーシャルワーカーについては、自分の学校にも来ていただいて、非常に助かったと思っております。しかし、2年程続けて配置していただいたのですが、その後、引き上げとなりました。他の学校に配置されるということもあるのだと思いますが、子どもや家庭での問題が多様化していますので、スクールソーシャルワーカーが配置されたことで、非常に効果もあり、助かったという思いがあります。引き続き、人数を増やすように取り組んでもらえたらと思っております。

委員

先ほど、不登校のことや、早い段階からの支援という意見がありましたが、実際、色んな問題を抱えている保護者が一定数いる中で、どのようにして支援していくかということだと思います。

委員

子育てサークルはコロナの影響で活動がストップしていたのですが、初めて妊娠した人や小さい子どもがいるお母さんたちは、どのタイミングで外に出ていいのか分からず、家でひきこもりみたいになっていたという人が多かったようです。ようやく最近になって外に出られるようになってきたのですが、自粛期間中に子どもとずっと家にいて、気分も落ち込んでいましたが、感染したらいけないので、外に出るのも怖く、どうしたらいいのか分からないから困っていたと言う人が多いので、「子育てサークルも活動を再開したのでよかったら来てください」という声掛け

をするようになりました。しかし、まだ家に籠っている人も多いと思うので、そういう人たちを何とか支援できるようにしていきたいと思っております。

委員

今後の取組みに色々書かれている項目について、期限が書いていないものが多く、いつまでに実施するのが分からないので、期限を決めることができるのであれば、いつまでに実施するかを示した方が計画の進捗状況を振り返る時に成果を把握しやすいのではないかと思います。

気になったのは、学力で全国の平均正答率との差の数値が下がっているが、成果のところでは「学力向上の成果が見られる」とのことなので、これはどういう読み取り方をするのが分かりませんでした。

あとは、コロナの影響により、学校での勉強が追いつけるよう、1日あたりの授業の時間数を増やしたり、もしくは休みを減らしたりと、兵庫県内でも市町村によって対応が異なっているので、その中で尼崎市の方法は良かったのか、あるいは悪かったのかということが気になりました。

ユース交流センターの取組でも、イベントの充実などが記載されていますが、感染症という問題がある中で、こういった様々な課題にどのように取り組んでいくのかがあれば良いと思います。

委員

上向きの矢印が多くて、とても良いと思います。

就学前の子どもの話題が多かったですが、環境的な面で保護者への支援というのがメインの活動になってきていると思います。これまでの話を聞いていたら、乳幼児期からの育ちをどのように支えていくかという観点の取組の内容もこれから追加されていくと良いと思います。

体力テストの結果などは向上が見られますが、一方で、全国や兵庫県の平均と比べると、まだまだ課題があるという記載がされていると思います。これまでの取組により、多くの学校で効果が見られるようになってきているからこそ、生活習慣病や自転車関連事故件数も大きな成果が出ておりますので、特に、そういった内容を含めて全国と比較したり、尼崎市の現状を知るための資料だと思いますので、しっかりお示しいただくことで、認識もより深まるのかなと思います。

この資料はホームページに公開されるのでしょうか。

事務局

29日に開催される全体会に上程し、その後に市のホームページに掲載する予定でございます。

委員

進捗状況の矢印の部分に網掛けをして強調した方が分かりやすいと思います。

事務局

進捗状況の矢印の部分にも網掛けをさせていただきます。

委員

発達障害の子どもの話題があったと思いますが、多くの発達障害の子どもを持つ保護者が、周りから「気になる」や「困っている」と言われていると思います。しかし、そのような子どもや保護者はすごく前向きに一生懸命向き合っている人が多いと思っていますし、我々もそういった保護者の方には、いくしあを案内したり小児科医院での相談を勧めると素直に応じてもらえています。

一方で、虐待を受けている子どもや学校などに迷惑をかけてしまう子どもというのは、おそらく発達相談などに来ていない家庭なのではないかと思っています。どちらかということ子育てに関心がなく、できれば子育ては誰かにお願いしたい、自分の時間が欲しい、子どもと関わるのは面倒、自分の子どもは普通の発達なのか、周りとは違うのか分からないといった家庭の子どもが、色々なところで迷惑をかけているのではないかと思います。

これは、発達障害というよりも愛着の問題だと考えております。保護者に訴えかけても中々応じてもらえないことがありますので、子どもたちのケアをしながら、子育て意識や、子どもの可愛さや子どもの良さに目を向けてもらえるよう働きかけるのですが、保護者自身が小さい頃にき

ちんと会話ができなくて、そのまま保護者になられた方もいますので、3歳児健診のときに課題があるような子どもを経過観察できるように、4歳児健診や5歳児健診というのが実施できないかと思います。3歳児健診だけでなく、幼稚園や保育所側から子どもの状態に関する報告や、あるいは児童相談所から虐待に関する連絡もありますので、そのような子どもたちや保護者に対して、どうケアしていくのかということが示されたら良いなと思います。

待機児童は解消されたのでしょうか。新2号認定こどもが増えて、長時間保育をしなくてはいけなくなっているの、先生がそこに時間を取られてしまいます。本当に必要な時間だけ保護者が子どもを預けるようにしておかないと、「無償だから預けたらいい」という意識が広まると、育児放棄や子どもは勝手に育つという認識になり、きちんとした育成ができないと思います。

あと、マスクについてですが、未満児保育の先生がマスクを外すと、保護者の方などから「あの先生マスクを外している」と言われることがあり、本来は先生の笑顔や子どもたちを可愛がっている顔を未満児（特に、0～1歳）に見せることは大切なのですが、マスクをしていると、顔が半分隠れているし、着けていることが当たり前になってきて、マスクを外した際に子どもたちが指をさして「違う顔だ」と言うくらい、マスクを着けることが当たり前ということが蔓延していて、本当に、このような未満児保育でいいのだろうかと感じております。また、マスクを外している園とマスクを外せない園があり、外せない園については、保護者が「マスクを外してはいけない」という理解をしていることが起因しているので、そのあたりを保育行政の中で、未満児保育の際のマスクの必要性をどうするかということを、市として見解を示していただきたいと思っています。

事務局

発達特性がある子どものことや愛着の問題があるのではないかと、また、親への支援も大事だというお話をいただきましたが、私たちも非常に大きな課題だと考えており、就学前の4～5歳児の子どもたちに向けて、毎年、ダイレクトメールを送り、いくしあに相談に来てくださいという呼びかけを行っております。

また、施設支援事業という事業があり、施設の中に保健師や作業療法士、医師などに入っていて、子どもを先生方と一緒に観察させていただき、その中で保護者の方に気づいてもらえるような助言などをして、相談につなげていくという取組を実施しておりますので、今後も引き続き取り組んでいこうと考えております。

2 尼崎市子ども・子育て支援事業計画（令和元年度実績）の点検・評価について

●資料2-1、2-2に基づき、事務局から説明

委員

待機児童は、ほとんど1～2歳児だと思うのですが、4～5歳児も含めた確保方策ということでしょうか。

事務局

待機児童数は、昨年が148人に対して今年が236人で88人増となっております。

待機児童の状況ですが、これまでは1～2歳児が多くなっておりましたが、今年度は1～3歳児が多くなっており、3歳児も待機児童が増えている状況でございます。無償化が始まった影響もあると考えておりますが、2歳児と同数くらいの3歳児の待機児童がおります。

委員

地域ごとの状況は分かりますか。

事務局

北部地域が多いです。特に、園田地域が一番多くなっており、これは、JR塚口駅周辺のマンション開発により増えているものでございます。

委員

その実態について、我々施設側はよく分かっていませんが、何かできることがあれば良いなと思っていますので、また、教えてもらえたらと思います。

資料2-2の6ページ「一時預かり事業（幼稚園型）」ですが、量の見込みは20万人以上で、そのほとんどを2号認定が占めています。申請者数のところでは2号認定が0になっています。これはどういうことでしょうか。

事務局

第1期の子ども・子育て事業計画を立てる際には、本当の需要が分からない中で算出したものでございます。また、中間年見直しについても教育・保育の待機児童数と放課後児童健全育成事業の待機児童数のみ見直したものです。その他の事業については、量の見込みが当初のままとなっております。

2号認定の方については、通常の「保育」として利用されておりますので、申請実績が無かったものでございます。

委員

2号認定なので一時預かりではなく通常の「保育」を利用されているということですので、当初の量の見込みでは差が生じているということですね。

多くの人々が利用しているので、施設側は非常に大変であるということをご理解いただきたいということと、現場に対して何かしらの方策を施していただきたいと思います。

委員

保育士不足の問題がありますが、保育士が充足できないから、子どもを多く預かれないということと、施設が増えたとしても保育士が必要であり、もし、新しい施設に保育士が移ったら、前に勤めていた施設の保育士が減りますので、やはり市内全体の保育士が増えない限りは、施設だけがが増えても難しいということだと思います。行政だけが考えることではないですが、現場もどのように保育士を定着化していくかということが課題になってきていますが、働き方改革もありますので、働き手にとって働きやすい職場にするということも大切なのですが、それを施設だけで対応するようと言われても、中々難しいので、実施するための財政的な支援が必要だと思います。

先ほどの一時預かり事業の話になりますが、日数だけでなく、時間もかなり増えてきており、現場の負担も大きくなってきております。では、保育士の定着化を図るために何をするのかということですが、子どもの育成ということからも、マンパワーが必要になりますが、何十年も前から保育士の配置基準が見直しされておられませんので、そのあたりを変えるだけで保育士の負担がすごく減るのではないかと考えております。

保育士確保ということもありますが、定着化という視点ではそういったところで、是非、何か考えていただけたらありがたいと思います。

資料2-2の延長保育事業でも、「保育体制の整備を図り、実施園を支援していく」と記載されておりますので、具体的にどのように整理していただくのかを考えていただければと思います。

また、申請者数と利用定員が差し引き0になっているので、現場が非常に頑張っているということだと思います。

事務局

毎年利用者が増えておりますので、保育士確保にも力を入れていただき、毎年100人程度増えておりますが、かなり厳しい状況ということは私ども把握しておりますので、対応を考えていかなければならないと思っています。

委員

「多様な事業者の参入促進・能力活用事業」でございますが、平成28年度の実績は1人だけということでしょうか。そうだとすれば、障害児保育が少ないという見方をすればよいのか、それとも実情に合っていない制度なのかどちらでしょうか。制度はあるけど利用しにくいということ

であれば、成果が出るための考えとして、利用できるための職員の受け入れ条件を実情に合うかたちに見直すということもご検討いただきますようお願いいたします。

事務局

市としても、特別な支援が必要な子どもに対し、適切な教育・保育を提供していくことが非常に重要だと考えておりますが、この制度の定義にあてはまる実績を掲載しておりますので、実際には幼稚園の場合は私学助成の補助制度であったり、保育所の場合は一般財源化されているもので障害保育事業がありますが、この資料に記載しているものは、それらで対応できないもので、制度の定義にあてはまった事業として活用したものでございます。

例えば、保育施設であれば、平成31年度は、法人保育施設等特別事業補助金という事業を実施しており、保育所では41園、108人の子どもに対し、特別な加配が必要な子どもへの支援を行っております。認定こども園につきましては、障害児保育事業として、7園、24人の子どもに対して補助を実施しております。

そのため、資料に掲載しているのは、あくまでも国の定義にあてはまり、補助の対象となった実績について記載させていただいているものでございます。

委員

具体的にどのような条件で対象になるのか教えていただけますでしょうか。

事務局

認定こども園の2・3号認定につきましては、障害児保育事業で補助をさせていただいております。この事業は尼崎市独自の事業でございます。

事務局

国の制度の対象になるのは、学校法人立の3号認定こどもだけで、障害児が2名以上いた場合に補助がされるという制度となっております。

委員

3号の子どもを障害児認定するというのは、基本的に小児科の人も嫌がると思われます。そういった意味では、実態に合っていないということも考慮いただければと思います。

3 その他

- 今後の日程等の業務連絡

部会長

これをもちまして、尼崎市子ども・子育て審議会第1回計画推進部会を終了させていただきます。

閉会

以 上

会 議 録 署 名 者

委 員

委 員